

「警戒レベル 4」までに 危険な場所から 全員避難！

警戒レベルを用いた防災情報

警戒レベルは数字が大きくなるほど危険度が高まります。右の表で、レベルに応じた適切な避難行動を確認しましょう。

Point



レベル 3（高齢者等避難）：高齢者や障害者（支援者含む）等は危険な場所から避難。それ以外のかたも準備を整え、必要に応じて自主避難を始めましょう。

レベル 4（避難指示）：危険な場所から全員速やかに避難してください。

警戒レベルと警戒レベル相当情報の違いは？

災害発生のおそれがある場合、大きく分けて 2 タイプの情報が出されます。市町村等から出される「警戒レベル」と気象庁等から出される「警戒レベル相当情報」です。

警戒レベル：市町村が発令

市町村が発令する避難情報等に付される数字（レベル）で、住民がとるべき行動を示す情報です。

例：レベル 3「高齢者等避難」、レベル 4「避難指示」レベル 5「緊急安全確保」

警戒レベル相当情報：気象庁等が発表

気象庁、国、都道府県が発表する防災気象情報に付されるもので、住民が自主的に避難行動を判断できるようにするための状況情報です。

※同レベル相当の防災気象情報（警戒レベル相当情報）と避難情報（避難指示等）の出るタイミングは、必ずしも同時になるわけではありません。

警戒レベル

住民がとるべき行動

警戒レベル
5
特別警報

命の危険
直ちに安全確保！

既に**災害が発生・切迫**している状態です。
避難所等に移動することすら危険な場合がある深刻な状況です。
直ちに身の安全を確保してください。
家の中で、崖や河川から遠い部屋や 2 階に移動するなど、自宅での安全確保を行ってください。

警戒レベル
4
危険警報

危険な場所から
全員避難

災害が発生する危険が高まっています。

**速やかに危険な場所から
避難先へ避難**しましょう。

安全な場所にある避難所や知人宅、親戚宅など、確実に避難してください。この段階で危険な場所からは、全員が避難を完了させる必要があります。

警戒レベル
3
警報

危険な場所から
高齢者等は
避難

**避難に時間を要する人
（ご高齢のかた、障害の
あるかた、乳幼児等）と
その支援者**は危険な場所から避難をしましょう。
その他の人は、避難の準備を整えましょう。

警戒レベル
2
注意報

避難に備え、最新の情報を確認。
ハザードマップ等により、自らの
避難行動を確認しましょう。

警戒レベル
1
早期注意情報

災害への心構えを高めましょう。
天気予報や最新の情報を確認しましょう。



注 意



津波は風水害と異なり、災害の危険度が段階的に高まる性質ではないことから、「警戒レベル」は用いられず、「避難指示」のみが発令されます。

これまでの防災気象情報は、災害ごとに名称がバラバラで、市町村の避難情報（避難指示等）との対応関係が分かりにくいという課題がありました。
このため、より効果的に防災情報を伝えることができるように、令和 8 年 5 月 29 日から新しい防災気象情報の運用が開始されました。

新しい防災気象情報

警戒レベル (相当)	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
5	レベル 5 氾濫特別警報	レベル 5 大雨特別警報	レベル 5 土砂災害特別警報	レベル 5 高潮特別警報
＜警戒レベル 4 までに危険な場所から必ず避難！＞				
4	レベル 4 氾濫危険警報	レベル 4 大雨危険警報	レベル 4 土砂災害危険警報	レベル 4 高潮危険警報
3	レベル 3 氾濫警報	レベル 3 大雨警報	レベル 3 土砂災害警報	レベル 3 高潮警報
2	レベル 2 氾濫注意報	レベル 2 大雨注意報	レベル 2 土砂災害注意報	レベル 2 高潮注意報
1	早期注意情報			

主な変更点

1 5 段階の警戒レベルごとに情報名を統一

新しい防災気象情報では、警戒レベルごとに情報名が統一されました。
レベル 2：〇〇注意報
レベル 3：〇〇警報
レベル 4：〇〇危険警報
レベル 5：〇〇特別警報

2 情報名へのレベル付記「レベル＋情報名」

警戒レベルとの関係を明確にするため、情報名称自体にレベルの数字が付きます。レベルの数字で、災害の切迫度や取るべき行動が直感的にわかりやすくなりました。

3 レベル 4 相当情報として「危険警報」が新設

警戒レベル 4 相当情報は全員避難の目安となる重要な情報ですが、これまで名称が統一されていませんでした。今後は、災害種類によらず「レベル 4 〇〇危険警報」として統一・整理され、運用されます。

これまでと変わらないこと

避難のタイミングと行動

警戒レベル 4 で、危険な場所から**全員避難**という原則は変わりません。

レベル 5 が発令・発表された時点で、すでに災害が発生または切迫している状況です。そのため、レベル 4 が出た時点で必ず危険な場所から避難を完了させてください。

次のページでは、警戒レベルとそれに応じた避難行動についてまとめています。

防災気象情報が 新しくなりました

※警戒レベル：

災害時の危険度と「とるべき避難行動」を 5 段階（1～5）の数字で分かりやすく示した情報です。

市町村が発令する避難情報に付記され、住民が「いつ・どのような避難行動をとるべきか」を直感的に判断できるように示されています。

令和 8 年 5 月末までの防災気象情報

警戒 レベル (相当)	洪水等に関する情報			土砂災害	高潮害
	指定河川洪水予報 (河川ごと)	洪水害 (市町村ごと)	大雨浸水害 (市町村ごと)		
5	氾濫発生情報	大雨特別警報 (浸水害)		大雨特別警報 (土砂災害)	高潮氾濫発生情報
4	氾濫危険情報			土砂災害警戒情報	高潮特別警報 高潮警報
3	氾濫警戒情報	洪水警報	大雨警報 (浸水害)	大雨警報 (土砂災害)	警報に切り替える 可能性が高い 高潮注意報
2	氾濫注意情報	洪水注意報	大雨注意報		高潮注意報
1					

↑災害種別によって名称が統一されていない



◆ 2026 さまに防災塾 第3弾

「超巨大地震の再来が近づいている!?（講演会）」を開催します

2026 さまに防災塾 第3弾

超巨大地震の 再来が近づいている!?



～東北大・北大・海洋研究開発機構が行った
千島海溝沿いでの海底観測結果報告～

今年度3回目の「さまに防災塾」は、東北大学・北海道大学・海洋研究開発機構（JAMSTEC）の共同研究チームによって今年2月に公表された、「北海道沖で17世紀以来の超巨大地震の再来が切迫している可能性を示唆する海底観測結果」についての講演会です。

また、あわせて建物の耐震化や家具の転倒防止についても、その必要性や方法について模型などを使って紹介します。

最大震度7を記録した先般の熊本地震でも、多くの家屋が倒壊するなどの甚大な被害が発生しました。大地震への心構えと実際の備えについて、一緒に考えてみませんか？

入場無料
・
申込不要

日時 令和8年9月17日（木）
午後6時30分～

場所 様似町中央公民館 文化ホール

第1部

海底観測で確認された千島海溝沿いでの「ひずみ」蓄積
～17世紀以来の超巨大地震の再来が切迫している可能性～

講師 北海道大学 地震火山研究観測センター
教授 高橋 浩晃（ひろあき）氏



第2部

あなたの住まいは大丈夫？
～建物の耐震化と家具の転倒防止策～

講師 北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所
主査（地域防災） 今井 崇嗣（たかし）氏



共催 様似町、様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会

協力 日高東部消防組合様似支署、北電ネットワーク道央南統括支店、
新日本電工(株)日高事業所、（地独）北海道立総合研究機構建築研究本部
北方建築総合研究所、アポイ岳ジオパークガイドの会



お問合せ 様似町役場 総務課防災・車両係 TEL：0146-36-2111 E-mail samani.chou@samani.jp

複数の情報収集手段を備えましょう

みなさんは、災害時にはどのような方法で情報を収集していますか？

災害時に適切な避難行動をとるには、正確な情報をすばやく集めることが大切です。発災時には一部の通信手段が途絶する可能性もあるため、複数の情報源を確保しておきましょう。

このページでは、発災時の主な情報収集手段とその特徴について整理しました。

災害発生時 どう情報を 集める？



代表的な情報収集手段とそれぞれのメリット・デメリット

1 テレビ

メリット：映像と音声で多くの情報が得られる。放送局が速報を伝えるためリアルタイムな情報が得られる。

デメリット：地震による機器の破損や停電で使えなくなる可能性がある。



2 ラジオ

メリット：小型で持ち運びが容易。電池式、手回し式、ソーラー式など、停電時にも使えるものが多い。

デメリット：特筆すべき弱点は少ないが、テレビやスマートフォンより得られる情報が少ない。



3 防災行政無線

メリット：自治体からの正確な情報がピンポイントに住民に向けて伝えられる。

デメリット：防災無線のスピーカーから遠いと音が聞き取りづらいことがある。



4 スマホ

メリット：緊急速報メールやインターネット・SNSで災害情報の確認等多目的に情報収集ができる。

デメリット：SNS等で正確性に欠ける情報が目に入る可能性があるため、情報の取捨選択が必要。



災害時の情報収集で重要なこと

災害時には、情報収集手段を複数用意しておくことが正確な情報を得ることにつながります。

例えば、停電によってテレビが使えなくなる場合でも、ラジオやスマートフォン、防災行政無線から情報を得ることができれば、必要な情報を確保することができます。

日頃から自宅や職場で活用できる情報収集手段を準備しておくことが、いざという時の安心につながります。

一歩先の備えを

防災ラジオやスマートフォン用のモバイルバッテリーの用意、町登録制メール・公式 SNS への登録など、普段から準備できることを進めておきましょう。

また、正確な情報を得るためには「信頼できる情報かどうかを確認する視点」も忘れずに、冷静な行動を心がけることが大切です。

今後の災害に備え、ぜひこの機会に情報収集手段を見直してみてください。



様似町登録制メール・様似町 LINE 公式アカウントで
防災情報等をいち早く受け取ることができます



様似町登録制メール



様似町 LINE 公式アカウント



お知らせする情報

- ・避難所の開設状況
- ・国道の通行止め状況
- ・防災無線の放送内容
- ・その他防災に関する情報
- ・役場からのお知らせ（イベント情報など）